

## 南箕輪村障がい者福祉計画の策定にあたって

新型コロナウイルス感染症の拡大や物価高騰等による社会的な影響により、ここ数年で生活様式が大きく変化しています。それに伴って、村民の皆様からお受けする相談も、障がい、介護、生活困窮や子育てなど、様々な要因が絡み合う複雑な事例が増えていると感じています。

村では、令和6年度から福祉課に相談係を新設し、複雑かつ多様化する相談に社会福祉士等の専門職が対応していきます。適切な支援にスムーズにつなぐとともに、その方に寄り添った伴走型支援をさせていただくことで、気持ちよく暮らしていただくお手伝いのできればと思っております。

上伊那圏域地域自立支援協議会では、部会の活動の中で「見える化」を進めてきています。「見える化」とは、障がい、介護、医療など様々な分野・職種を超えて各制度について学び、顔の見える関係づくりをしていくことで、利用できるサービスがあるのに支援者が知らないが故に使えないといったことをなくするための取組です。具体的には、高齢者施設で精神保健福祉士による職員研修会を行い、高齢者で精神疾患のある方への対応について学んだり、福祉の人材不足が深刻となっている現状をふまえ、上伊那地域の高等学校に出かけ、精神障がいを抱える当事者と生徒が交流し、その方の症状や生活を支える支援者の役割を学ぶ出前講座を行ったりと、暮らしやすい地域づくりのための取組を行っています。

病院や施設が終の棲家ではなく、地域への移行が推進されている今、ライフステージごとに切れ目のない支援を受けながら、障がいの有無に関わらず自らの意思決定によって住み慣れた地域で生活することができる共生社会の実現が求められています。

村では、今回策定した計画を推進し、「いつまでも幸せに暮らせるむらづくり」に取組んで参りますので、関係団体や関係事業所、村民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提案をいただきました「南箕輪村福祉計画策定懇話会」の委員の皆様をはじめ、アンケート調査やヒアリングにご協力いただきました多くの村民の皆様に、心からお礼申し上げます。

令和6（2024）年3月

南箕輪村長 藤城 栄文

